

七夕祭

東京市富士見尋常小學校附屬幼稚園

私の園では五六年前から、行事の一つとして毎

吹流しは梅組の子供が先生と共に糊をつけてつ

年七夕祭をして來ました、七月の一日頃から松竹梅の幼児がいつしよになり、その仕事にかゝります、色紙を以て短冊や吹流しを裁ちきり、着物や瓢箪や團子や扇子などを作り、之に子供は自由にすき／＼な模様を描きます、又織紙を細くきり澤山の提灯を造ります、摺紙ではいろ／＼すきなものを自由に作りま



(二) 富士見幼稚園七夕祭

ぎ合せました、短冊には天の川、七夕まつり、ほしまつり等と加さ、又自分の名前をかく子供もあります。

斯くして準備が出来ますと、六日の日には二本の美しい七夕笹が家庭に高く立てられます。そして此の日子供は、次のやうな小さな「すりもの」を持つて家へ歸ります。

「七夕祭をかね保護者懇話會を開きますから御出席を願ひま

す」

我園では、かゝる機會に父母兄姉の來園を求め
るのを例にして居ります。

今年、折あしく雨であつたので、遊戯室へ此
の笹竹を立てました、七月には午前九時半迄に、
子供と共に保護者は此の室にはせまい程に集りま
した、新らしい青い竹と笹の葉との間に紅白黄い
ろくゝの色彩がいろくゝの形をして上や下や外や
内に風に動いて居ります、長い吹き流しや網は下
まで届いて居ります。

校長は「お船の中から見た天」といふやうなおは
なしを簡單にしますし、續いて先生は、「雨のたな
ばた様」のおはなしを面白くしました、それから
子供の獨唱や、一人遊戯をなし、松の女は、「流れ
星の遊戯、男は「牛若丸」竹の女は「シャボン玉」梅
の女は「ホタル來い」竹の男と梅の男は、いつ
しよに「金太郎」の遊戯をしました、之は全く子供

ばかりでさせました。

終つて記念撮影をし、一同へお菓子をやり、父
兄母姉と親しく快談をして十二時散會しました。

口繪寫眞は、その時の模様であります。

○起し繪を照らす西瓜の燈籠かな

子規

○走馬燈囃せばいよく廻りけり

鳴雪